

一般社団法人 日本小児血液・がん学会
第42回（平成30年度第3回）理事会議事録

日 時：平成30年9月7日（金） 13：00～16：00

場 所：AP品川 10階 Bルーム

東京都港区高輪 3-25-23 京急第2ビル 10F

出席者：細井 創（理事長・第60回学術集会会長）

真部 淳（副理事長）

井上 健、大植孝治、上條岳彦、上別府圭子、木下義晶、康 勝好、副島俊典、
滝田順子、松本公一、盛武 浩、米田光宏、（以上理事）

菊田 敦（監事・第62回学術集会会長）、越永従道（監事）

檜山英三（第61回学術集会会長）

欠席者：足立壯一、天野功二、今泉益栄、小野 滋、西川 亮（以上理事）

議長：細井理事長

冒頭に、本日の理事出席者数は18名中13名であり、定款施行細則第8条第3項に定める成立定足数を満たしているため、本理事会は成立することを確認し、以下の議案について逐次審議に入った。

I. 前回理事会議事録（案）の確認

議長より、前回議事録（案）が示され、議場にその承認が求められたところ、全員異議なく承認された。

II. 審議事項

1. 入会申請者の件

松本庶務・財務委員長より、資料をもとに、入会申請者65名が示され、議場にその承認が求められたところ、全員異議なく承認された。

また、議場より、登録項目「職種」の選択肢が医師・非医師となっており、本来の意味での職種ではないとの意見があったため、議場にて討議がなされたところ、医師・非医師の別を判断する項目名を再検討することと、職種の項目を新たに設けることを、庶務・財務委員会にて検討することとなった。

2. 第63回日本小児血液・がん学会学術集会会長選出について

議長より、標記事項について、資料をもとに、本年度は井上雅美先生（大阪府立母子保健総合医療センター）1名の立候補があったことが説明され、議場にその選任について承認が求められたところ、全員異議なく承認された。

3. 疾患委員会小委員会委員公募について

松本疾患副委員長より、標記事項について、資料をもとに説明がなされた後、公募を開始することが提案され、議場にその承認が求められたところ、全員異議なく承認された。

血小板委員会は委員会希望により公募期間1週間、その他の委員会は公募期間1ヶ月とする。

4. 低出生体重児と肝芽腫に関する合同委員会について

議長より、小児がん全国登録より、低出生体重児と肝芽腫に関して検討する合同委員会を、日本新生児成育医学会、小児がん全国登録と本会で組織する要望があったことが説明され、議場に意見が求められたところ、目的が不明瞭である、日本小児外科学会等の関連学会も含めて欲しい、との意見開陳がなされ、詳細を確認した後で、再検討することとなった。

5. UMIN センター学術集会演題抄録登録システムの継続利用について

議長より、標記事項について、継続利用するには1回8万5千円（100～1,000演題）の費用がかかることが説明され、議場にその承認が求められたところ、全員異議なく承認された。

6. LCAS（小児・AYA 世代のがんの長期フォローアップ体制整備事業）第2回研修会質疑応答のHP公開について

議長より、資料をもとに、標記事項について説明がなされ、議場にて確認がなされたところ、以下の意見開陳及び討議がなされた。

- ・一般向けに公開する場合は専門用語の解説が必要である。
- ・パブリックコメントが必要ではないか。
→学会としてのガイドラインではないため、パブリックコメントは不要と考える。
- ・用語が統一されていない。
- ・質疑応答ページが作成された経緯についても記載すべきである。

討議の結果、副島理事が質疑応答の文言を確認及び修正し、大植理事が質疑応答ページ作成経緯の文章案を作成することとして、継続審議事項となった。

7. LCAS 第2回研修会テキスト印刷費用について

議長より、資料をもとに、標記事項について説明がなされ、議場にその承認が求められたところ、価格が高いとの意見があったが、厚生労働省の確認も経ているため、作成様式は変更しないこととして、原案どおり承認された。

8. 編集協力費について

井上学会誌編集委員長より、資料をもとに、英文校正費用について、和文・英文の区別なく、編集協力費として一律3,000円での著者負担とし、英文論文の場合の不足分は学会負担とすることが提案され、議場にその承認が求められたところ、全員異議なく承認された。

9. 学会誌からの営利目的・商業的利用のための転載費用について

井上学会誌編集委員長より、学会誌の転載に関する費用規程がなかったため、診療ガイドラインの転載費用と同じ基準・金額とすることが提案され、議場にその承認が求められたところ、全員異議なく承認された。

10. 投稿・執筆規定の改正について

井上学会誌編集委員長より、資料をもとに、標記事項について以下の変更点が説明された。

- ・編集協力費に関して追記した。
 - ・二次出版に関して追記した。
 - ・転載許諾に関して追記した。
- 投稿・執筆規定の改正について、議場に承認が求められたところ、全員異議なく承認された。

11. LCAS 研修会で利用するデジカメ購入について

大植理事より、資料をもとに、小児・AYA 世代のがんの長期フォローアップに関する研修会記録用のデジタルカメラを購入することが提案され、議場にその承認が求められたところ、全員異議なく承認された。

12. 「日本医学会 129 分科会の医学雑誌編集と COI 管理にかかるアンケート調査」回答案について

大植倫理副委員長と井上学会誌編集委員長より、資料をもとに、標記の回答案について説明がなされ、議場にて確認がなされた後、その承認が求められたところ、全員異議なく承認された。

13. 平成 30 年度 女性医師支援担当者連絡会の開催について

議長より、標記事項について、資料をもとに説明がなされ、滝田理事が担当者として推薦され、議場にその承認が求められたところ、全員異議なく承認された。

14. 「アメリカ医師会 (AMA) ・日本医師会 (JMA) 共同シンポジウム開催案内の件

議長より、標記事項について、資料をもとに説明がなされ、井上学会誌編集委員長が参加者として推薦され、議場にその承認が求められたところ、全員異議なく承認された。

また、本シンポジウムは学会 HP で広報することとする。

15. 疾患登録事業委託費支払方法の変更について

議長より、資料をもとに、疾患登録事業委託費について、国立成育医療研究センターより、支払方法を外注費用としての直接支払に変更するよう要望があったことが説明され、松本理事より変更理由について説明がなされた後、議場にその承認が求められたところ、全員異議なく承認された。

16. LCAS の職員雇用について

議長より、標記事項について、広島大学駐在職員が退職したことが報告され、新規雇用者については、国立成育医療研究センターに新たに事務局を設けて職員を雇用することが提案され、松本理事より、国立成育医療研究センターでの対応が可能であることが報告された後、議場にその承認が求められたところ、全員異議なく承認された。

また、議場より、9 月 29 日開催の第 2 回研修会での運営人員が不足しているとの報告があり、議場にて討議がなされたところ、現地の関連施設に協力を募ることとなった。

17. 学術集会第 60 回学術集会登録演題の採択可否について

米田学術集会プログラム委員長より、標記について、倫理審査の必要性が問われている演題があることが説明され、学術集会プログラム委員会と倫理委員会にて審議したことが報告された後、演題登録者の研究時所属施設より発表許可書を得ることを条件として採択を許可することが提案され、議場

にその承認が求められたところ、以下の討議がなされた。

- ・演題登録者への回答書の発出元について確認がなされ、理事長名で発出することが確認された。
- ・倫理審査を必要とする演題は、必ず倫理審査を通すよう、さらに周知すべき、との意見がなされた。
審議の結果、原案通り、演題登録者の研究所所属施設より発表許可書を得ることを条件として採択を許可することが承認された。

Ⅲ. 報告事項

1. 第 60 回日本小児血液・がん学会学術集会

細井会長より、資料をもとに、準備状況とプログラム内容について、説明がなされた。

議場にて、以下の意見開陳と討議がなされた。

- ・小川誠司先生の特別講演について、英語での講演と追記するよう意見があり、そのように修正することとなった。
- ・国立成育医療研究センター、ワシントン小児病院、上海小児病院の 3 施設の合同セッション開催要望があり、日時と会場について後日検討することとなった。
- ・長時間の教育セッションを 1 つ追加してはどうかとの意見があり、後日検討することとなった。
- ・優秀演題セッションの座長について確認がなされたところ、今回は前体制で決定しているため、前体制の理事長及び学術集会プログラム委員会が務めることが確認された。
- ・優秀演題セッションの開催時刻に他演題が開催されることについて確認がなされたところ、SIOP の関係もあり、タイトなスケジュールであるため、優秀演題の開催時刻に他演題を開催せざるを得ないことが報告された。

2. 第 61 回日本小児血液・がん学会学術集会

檜山次期会長より、資料をもとに、会場使用計画について、説明がなされた。

また、檜山次期会長より、社員総会の開催について議場に確認がなされ、2 日目の朝開催とすることが確認された。さらに、日本小児がん看護学会が独自のポスターを作成されていることについて、同じポスターを使用してはどうかとの提案がなされ、後日検討することとなった。

3. 第 62 回日本小児血液・がん学会学術集会

菊田次々期会長より、準備状況について、以下の報告がなされた。

日時：2020 年 11 月 20 日～22 日

場所：郡山市ビッグパレット

4. 教育・研修委員会

大植教育・研修委員長より、資料をもとに、以下の報告がなされた。

- ・各地区のセミナーについては、北海道・中部・中四国・九州山口の 4 カ所で開催する。
- ・教育セミナーについて、今後、講師選定を予定している。
- ・小児医療に携わる医師に対する緩和ケア研修（CLIC）について、第 1 回研修会の収支が報告された。日本緩和医療学会との費用分担については、これより討議する予定である。

また、議場より、CLIC の学会支援機構への事務委託費について、請求方法について再確認するよう意見がなされた。

5. 庶務報告

松本庶務・財務委員長より、現在の会員状況について、資料をもとに報告がなされた。

6. 学会誌編集委員会報告

井上学会誌編集委員長より、資料をもとに、学会誌の発行状況及び審査状況が報告された。

7. 研究審査委員会報告

上條研究審査委員長より、資料をもとに、研究審査状況が報告された。

8. 学術・調査委員会

議長より、資料をもとに、疾患登録事業の進捗状況について報告がなされた。

9. 保険診療委員会

議長より、資料をもとに、以下の活動報告がなされた。

- ・2020年度診療報酬改訂に向けた学会会員提案を募集している
- ・「医療上必要性が高い未承認薬・適応外薬検討会議」への要望について
 1. フルダラビン：再発・難治性急性骨髄性白血病に対する他の抗悪性腫瘍剤との併用療法（FLAG+IDR療法）（継続）
G-CSF：再発・難治性急性骨髄性白血病に対するフルダラビンを含む抗悪性腫瘍剤との併用療法（FLAG+IDA療法）（継続）
（適応外薬、日本血液学会と共同提出）
 2. 神経芽腫に対するイソトレチノイン（isotretinoin, 13-cis-retinoic acid）
（未承認薬）（提出済）（継続）
 3. 中等度以上の再生不良性貧血に対する抗ヒト胸腺細胞ウマ免疫グロブリン（equine thymocyte immune globulin injection）
（未承認薬）
- ・厚生労働省要望（日本血液学会との共同要望）
 1. NUDT15 遺伝子多型検査への早期保険適用に関わる要望書
 2. プリナツモマブ製剤の携帯型精密輸液ポンプ適応に関する要望
- ・日本医師会の治験候補薬の推薦
- ・小児医薬品開発ネットワーク事業（日本小児科学会指導のAMED「臨床研究・治験推進研究事業」）の参加
- ・「免疫遺伝子再構成を利用した定量PCR法による微小残存腫瘍」（2018年4月保険収載）の検査施設の新規並びに更新認定
- ・再発及び難治性ユーイング肉腫ファミリー腫瘍に対するテモゾロミドの使用実態調査

10. 長期フォローアップ・移行期医療委員会

細井長期フォローアップ・移行期医療委員長より、資料をもとに、以下の活動報告がなされた。

- ・LCASの運営に携わる中心的なメンバーについて、ファシリテーターとは別に「LCAS運営委員」

として委嘱することが報告された。

- ・AYA 世代がんに対する研修内容の盛り込み（AYA5 大がんへの対応）について、今年度は思春期や若年性発症の肉腫などを対象に研修会へ盛り込む予定である。

- ・乳がんなど、現在の講師やファシリテーターではカリキュラム作成が困難な領域について、日本癌治療学会、日本臨床腫瘍学会へ、理事長名で正式に協力を要請することを予定している。

- ・平成 31 年度は東京と大阪で合計 4 回研修会を開催する。

- ・平成 30 年度予算が平成 29 年度より減額されたため、厚生労働省と来年度予算増額について要望する予定である。

- ・平成 32 年度以降の継続体制についても検討している。

- ・講師やファシリテーターへの研修会受講証発行を検討している。

議場より、長期フォローアップ体制整備事業について、保険点数に関する質問がなされ、今後も継続して要望していくことが報告された。

11. 専門医制度委員会

滝田専門医制度委員長より、北海道で発生した地震により、交通機能が麻痺したことで受験困難となった受験者がいることが報告され、対応について議場に意見が求められたところ、討議がなされ、受験料は返金対応とし、今回の応募書類については来年度も受験できるよう認めることとなった。

12. 国際委員会

康国際委員長より、Asian Session の招聘者が決定したことが報告された。また、Asian Session の次年度以降の継続について検討予定である。

13. SIOP 2018 の学会ブース担当者について

真部副理事長より、標記事項について、議場に意見が求められたところ、討議がなされ、今後の検討事項となった。

議長は、以上をもって本日の議案の審議を全て終了した旨を述べ、閉会を宣した。